

II Advising and Counseling (Annual Report(2nd semester, 2019-1st semester, 2020))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 案野, 香子, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028199

Ⅱ 指導・相談業務

案野 香子／袴田 麻里

静岡大学国際連携推進機構には、指導・相談だけを専門に担当する教員はいないが、静岡キャンパスは令和元年度後期は原沢、令和2年度前期は案野が、浜松キャンパスは袴田が中心に日本語教育と並行する形で指導・相談業務を担当している。チューターの指導に関しては、「留学生チューターのしおり」と「指導教員の手引き」を作成し、留学生の支援に役立っている。学生の相談については、相談担当の教員だけでなく、その他の教員も日常的に留学生の相談に乗っており、全員で留学生の支援に当たっている。

このような留学生に対する相談業務とは別に、全学学生に対する留学相談がある。本学の大学間交流校であるネブラスカ大学（アメリカ）、アルバータ大学（カナダ）、朝鮮大学校（韓国）には連絡教員が任命されており、機構専任教員と国際交流委員会委員の2名体制となっている。したがって、これらの大学への留学を希望する学生をはじめ、その他の海外協定校に留学する希望をもっている学生からの相談もある。

平成20年度より、国際交流課を中心に海外留学説明会を開催しており、夏季語学研修旅行や協定校への交換留学、ILUNO留学を希望する学生からの相談をセンター教員全員で分担して受けている。詳細は「Ⅳ. 海外学生派遣」の項を参照していただきたい。現在多くの海外協定校へ学生が留学生として派遣されているが、メールによる近況報告が国際交流課を通じて行なわれ、留学情報が関係者との間で共有されている。

チューターの指導に関しては、各学部と連携をとりつつ、指導教員およびチューターに対し、チューター制度を正しく理解し、運用するようにする取り組みを行っている。支援業務の内容も必要に応じて毎年修正を行っている。また、国際交流課では、「外国人留学生のチューターについて（概要）」をまとめ、各部局に配布、全学で統一した運用が図れるようにしている。

平成27年度からアジアブリッジプログラムが始まったため、「留学生チューターのしおり」と「留学生指導教員の手引き」を大きく改訂し、その後も必要に応じて修正を行い、各部局および指導教員へ配布している。今後も、指導教員や各学部留学生窓口からの意見を集約し、適宜修正を加えていく予定である。

専門カウンセラーによる相談業務は、平成27年度より引き続き石川令子カウンセラーが静岡・浜松キャンパスで毎週各1回担当し、カウンセリングの予約はインターネットで行う。カウンセリングを希望する留学生は、大学のホームページから簡単に予約でき、より充実したサポート体制の構築に貢献している。新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度は、オンラインでの面談とした。

〈静岡キャンパス〉

石川令子カウンセラーが、令和元年度は毎週水曜日の午後、令和2年度前期は毎週木曜日の午前、相談に応じている。センターで日本語を学ぶ留学生やABP留学生、学部留学生に面接を受けるように指導しているが、様々な問題を抱える留学生が増えていることから、

自分の悩みに向き合う良いきっかけとなっている。

静岡キャンパスでは、協定校からの交換留学生を中心に、学期中に1回は必ずカウンセラーと面談するように勧めている。令和元年度後期と令和2年度前期のカウンセラーによる相談の内容は、以下のようになっている。

表1：静岡キャンパス留学生カウンセラー対応内容 令和元年度後期は記録なし。

学期	学 業	日常生活	人間関係	健 康	経済面	その他	合 計
R2年度前期	1	0	2	0	0	0	3

令和2年度前期は新型コロナウイルスの感染拡大防止による社会の不安定と学生同士の対面交流の制限が原因と思われる心の問題が浮き彫りになった。オンライン授業で登校も制限されているため国際連携推進機構教員が気になる学生に声をかけづらかったことも事実である。しかし、教員からメールで学生に連絡をとる頻度が高くなり、逆に秘密裏に声を聞けたという利点もあった。

寮の5人一組のユニットでの人間関係も課題であった。国の文化の違いはもとより、個人の価値観による衝突が見られた。

留学生カウンセラーと国際連携推進機構教員、国際交流会館職員が連携をとり、学生対応を行った。(以上、案野)

〈浜松キャンパス〉

来日したばかりの留学生と非常勤留学生カウンセラー（平成30年度までは隔週木曜日、令和元年度からは毎週木曜日、日・英語で対応）の顔合わせの時間を作り、相談室の場所やカウンセラーを知ることができるようにしている。

表2：浜松キャンパス留学生カウンセラー対応内容

学期	学 業	日常生活	人間関係	健 康	経済面	その他	合 計
R元年度後期	33	25	33	27	9	4	141
R2年度前期	1	3	1	1	0	0	6

機構教員による相談業務では、令和元年度後期は延べ103件、人数は100人だった。令和2年度前期は65件で、54人から相談があった（表3、表4）。

表3：相談者の内訳

項目	内 訳	R元後期	R2前期
相談人数	合計	100	54
属性	留学生、外国人研究者	57	40
	日本人学生	28	7
	教職員	6	4
	学外	9	3
学内所属	工学部・専攻	62	34
	情報学部・専攻	14	7
	創造科学技術大学院	4	6
	その他の所属	2	0

表4：相談内容の内訳

集計期間	総計	言語	住居	生活	進路・就職	履修・研究活動	奨学金	授業料・経済状況	バイト
R1年後期	103	13	1	1	24	17	5	1	1
R2年前期	65	5	1	15	16	10	4	0	0

集計期間	チューター	健康	在留資格	人間関係	地域・ホームステイ	交流・ボランティア	海外留学	行事・挨拶・その他
R1年後期	1	0	4	3	4	2	24	2
R2年前期	0	6	1	0	1	1	5	0

浜松キャンパスでは、留学生カウンセラーと専任教員が適宜指導教員等と連携して、研究室での人間関係や心身の不調による引きこもり等に対処している。

単位不足による留年を防ぐため、平成19年度より半年ごとに工学部教員と国際連携推進機構教員が学部留学生の成績チェックを行い、問題がある場合には指導を行っている。令和2年9月現在、工学部で8名が加年度生として在籍している。このうち1名は休学している。

入学時ガイダンス、国際交流会館での入居者懇親会は、新しく静岡大学の学籍を得た留学生に対して、例年10月・4月に実施しているが、新型コロナウイルス感染拡大により、いずれもガイダンスのみ実施した。国際交流会館防災訓練（10月）も引き続き行っている。令和元年度は、浜松工業会（同窓会）、情報学部福利厚生会からの援助を受けて「国際文化体験祭」を実施し、留学生、日本人学生、教職員の交流を図った。

平成24年以降、海外留学に関心を持つ日本人学生の相談が増えている。各学部・学科の新入生ガイダンスで海外留学や留学生との交流について説明する時間を得たことで、1年生、2年生の相談が多かった。令和2年度は情報学部新入生セミナーで情報提供の機会を得

たが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンデマンドでの講義となった。

(以上、袴田)